

3 - 14 伊豆半島およびその周辺の地震活動について

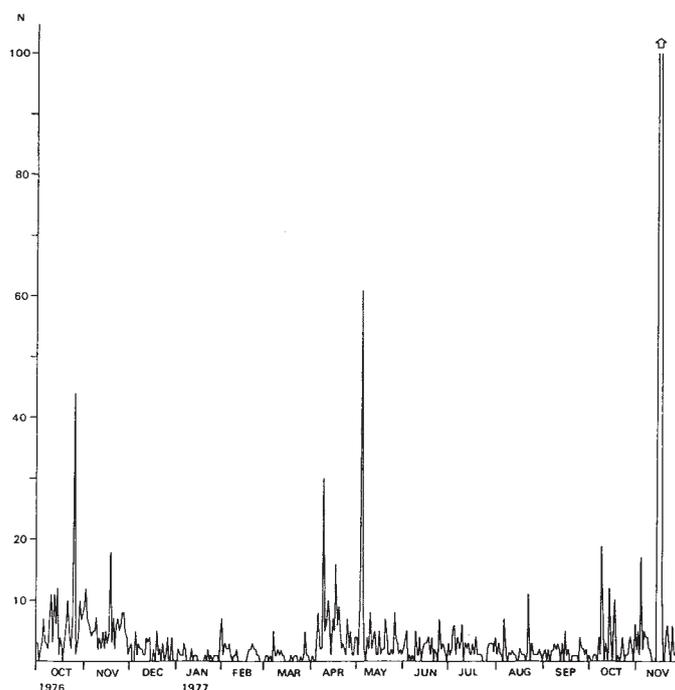
Seismic Activity in and around Izu Peninsula.

気象庁地震課, 地震活動検測センター
SAMC, Seismological Division, Japan Meteorological Agency

第1図は伊東市鎌田で観測した伊豆半島およびその周辺に発生した地震の日別回数の変化である。地震回数は前報で報告した1977年4月9日と5月4日に一時的に遠笠山周辺で増加した以後は比較的静かな状態が続いていた。しかし、同年10月9日から18日にかけて北川沖にやや小地震が増加し、その後10月29日から11月にかけて大島西方の近海に地震が群発した。第2図はその変化を示したものであるが、10月31日と11月17日に2つの活動の山がある。しかし、大島近海は歴史的にもたびたび地震が群発しており、特に珍しい現象ではない。

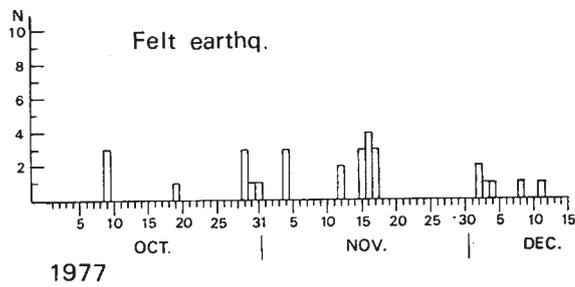
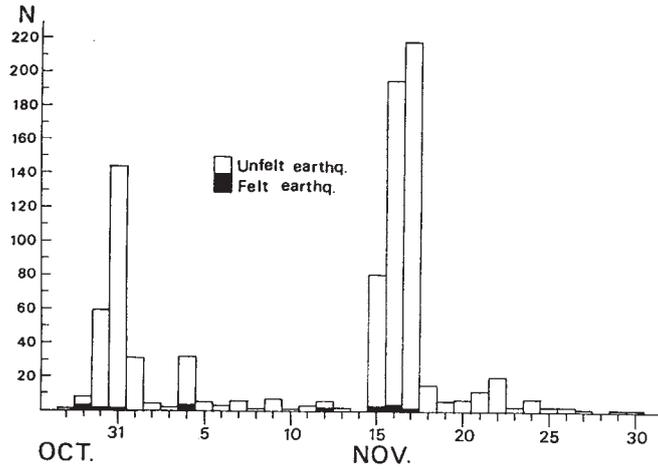
また、1977年11月6日0時31分に根府川付近の東経139度08分、北緯35度12分に深さ10km、マグニチュード3.9の地震が発生したが、その時震央から約18km離れた網代の体積歪計に第3図のような前駆的なひずみの変動が現われた。

網代では1977年4月から体積歪計による連続観測を開始しているが、この地震が一番近い所で起った最大規模のものであった。



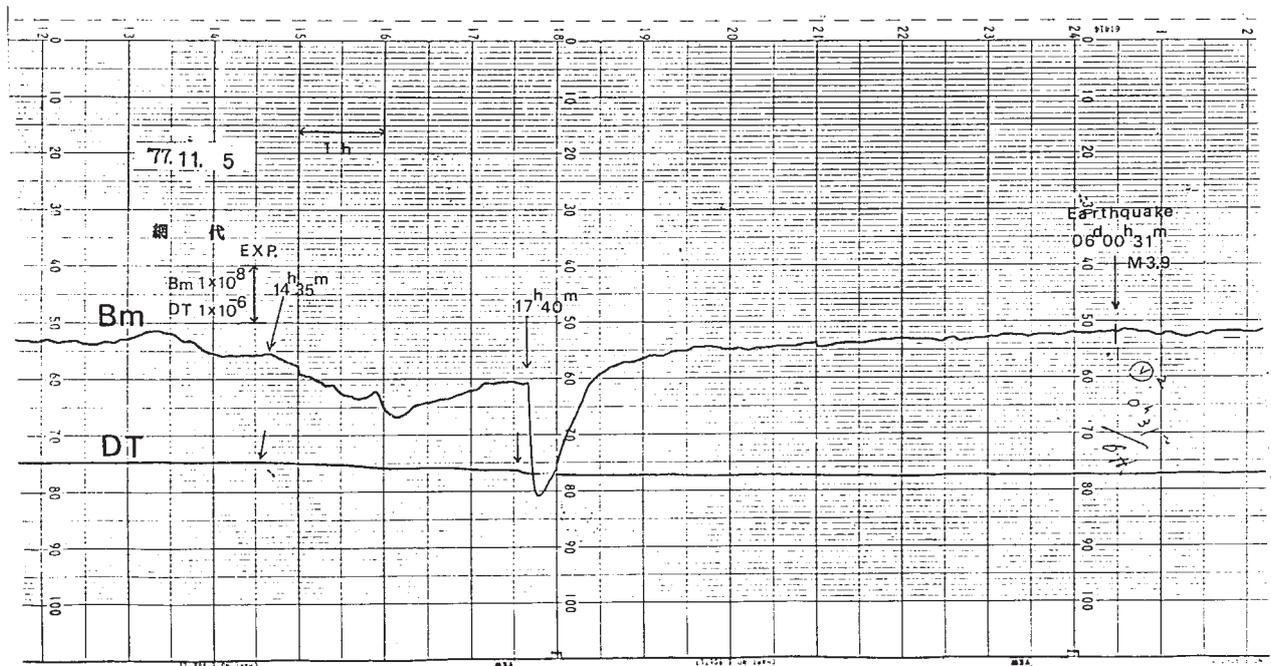
第1図 鎌田で観測した伊豆半島周辺の地震回数の変化

Fig. 1 Daily number of earthquakes near the Izu Peninsula observed at Kamata.



第2図 大島付近の地震回数の変化

Fig. 2 Daily number of earthquakes near the Oshima Island observed at Oshima.



第3図 1977年11月6日の根付川付近の地震 (M3.9) の前に観測された網代の歪計の変化

Fig. 3 Strain change by the Borehole Strainmeter at Ajiro observed prior to earthquake near Nebukawa (M:3.9) of November 6, 1977.